

サイトメトリー技術者認定試験 合格体験記

愛知医科大学産婦人科講座 松川哲也

はじめに

愛知医科大学産婦人科の松川と申します。このたび、このような寄稿の機会をいただき、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

私自身は、初期研修修了以来、産婦人科医として働いておりまして、フローサイトメトリーは学生時代の実習で血液内科の先生がプロットを見せてくださったことを、かすかに覚えている程度でした。卒後数年が経過して、臨床業務からいったん離れ、大学院生として免疫学の基礎研究室で研究する機会を得ました。研究を始めた当初は、表面抗原の意味もよく分からなかったのですが、ご指導をいただき、最終的にはリンパ球の培養をしたり、フローサイトメトリーのエクスペリメントを作成したり、セルソーティングをして研究を進めておりました。

学位取得後は産婦人科に戻り、現在は再び臨床がエフォートの大きい勤務をしています。一方で、研究では今後もフローサイトメトリーを扱う予定であり、これまで経験的に身に付けてきた知識を一度体系的に整理し、不足している部分を補いたいと考え、サイトメトリー技術者認定試験の受験を決めました。

受験資格

受験を考えた際、最初の問題は試験の内容ではなく、そもそも自分に受験資格があるのかということでした。受験資格には4つの要件があり、そのうち私にとっては2つがポイントとなりました。

一つ目は、所定の学会に3年以上在籍しているという要件です。私は学会在籍期間が3年に達していませんでしたが、筆頭著者として発表した論文をもって、この要件に代えることができました。二つ目は、1年以上のサイトメトリー実務経験が必要という要件です。「大学院生として研究室で行っていた研究活動は、実務経験に含まれるのだろうか」と疑問に思いましたが、学会事務局から実務経験として認められるとの回答をいただきました。

受験資格を確認する過程では、学会事務局に丁寧にご対応いただき、深く感謝しております。

勉強方法

試験勉強には、日本サイトメトリー技術者認定協議会が発行している「スタンダードフローサイトメトリー」を使用しました。

フローサイトメーターやセルソーターは研究で日常的に扱っていたため、受験を決めた当初は、原理に関する知識はおおむね身に付いているつもりでいました。しかし、テキストを体系的に読み進めると、理解が不十分な部分や、経験則だけで操作していた部分が次々と見

つかりました。また、テキストにはこれまで知らなかった測定技術や原理も多数記載されており、興味深く学ぶことができました。

その一方で、学習における最大の課題となったのは、血液疾患における表面抗原の特徴でした。研究では、主として正常リンパ球や遺伝子改変リンパ球を扱っていました。そのため、異常リンパ球や各種白血病の免疫表現型については、全く知識がありませんでした。当初はテキストを一通り読めば十分ではないかと考えていましたが、血液疾患の項目に差しかった時点で、その考えは急速に修正されました。このままさらっとテキストを勉強しただけで試験に臨めば、さらっと不合格になるだろうと確信し、スタンダードフローサイトメトリーを繰り返し読みながら、表面抗原の組み合わせを整理しました。それでも、試験直前まで不安は残りました。

試験当日

試験当日は、サイトメトリー技術者講習会を受講した後に認定試験に臨みました。

講習会では、講師の先生方が試験に必要な知識を体系的に整理し、非常に分かりやすく解説してくださいました。独学では曖昧なまま覚えていた内容も、背景や原理を含めて説明していただくことで腑に落ち、記憶にも残りやすくなりました。

特に、自分では理解したつもりになっていた項目について、講義を聞くことで知識の抜けや誤解に気付くことができました。試験当日の講習会ではありますが、単なる直前対策というよりも、それまで学習してきた知識を整理し、それぞれの位置づけを確認する機会であったように思います。

講習会を受講したうえで試験に臨めたことは、合格につながった大きな要因の一つでした。

終わりに

認定試験の勉強を通じて、これまで断片的、経験的に身に付けてきた知識を体系的に整理することができました。また、血液疾患や測定原理など、日常の研究だけでは十分に学ぶ機会の少ない領域についても理解を深めることができました。

資格を取得したことによって職務上や研究上に直接的なメリットがあるわけではありませんが、貴重な自己研鑽の機会をいただくことができました。サイトメトリー学会の皆様に改めて感謝するとともに、ますますのご発展を祈念いたします。